

高知県感染症発生動向調査（週報）

2013年 第35週 （8月26日～9月1日）

★ お知らせ

○手足口病再び警報値に！

定点医療機関からの報告は5.77と前週の4.50から増加し、警報値を超えています。夏を中心に流行する代表的疾患で、倦怠感や口腔内の痛みなどから食事や水分を十分にとれず、脱水になることもありますので、こまめな水分補給を心がけてください。一般的に軽症ですが、高熱、頭痛、嘔吐などには注意してください。まれに急性脳炎や心筋炎などの合併症を起こすことがあります。病原となるウイルスは、鼻汁・糞便等による接触感染、もしくは咳等による飛沫感染や経口感染によります。回復後にも2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあるので、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避けましょう。また、外から帰った後、食事の前、トイレの後に手洗いを行うことが大切です。

○RSウイルス感染症に注意して！

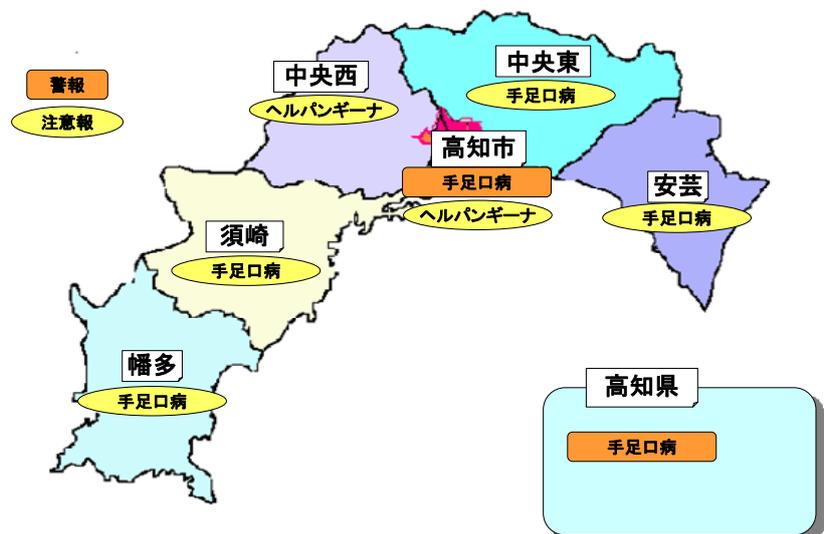
定点医療機関からの報告が3週連続増加しています。RSウイルス（Respiratory Syncytial Virus）が伝播することによって発生する呼吸器感染症で、主な感染経路は飛沫感染と接触感染です。感染力が強く、肺炎を起こすなど重症化することもあります。特に、生後6か月未満の乳児や低出生体重児、心疾患、肺疾患、免疫不全のある方の場合は、重症化しやすいとされるため注意が必要です。予防のポイントは、手洗いと咳エチケットです。マスクを着用するなどして咳エチケットに気をつけ、手洗いによる手指衛生に努めましょう。

★ 県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ：急増 ：増加 ：横ばい ：減少 ：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
手足口病		5.77	高知市、安芸、須崎で増加し、県全域及び高知市では警報値を、安芸、須崎、幡多、中央東では注意報値を超している。
ヘルパンギーナ		1.87	全ての地域で減少している。中央西、高知市では注意報値を超している。
感染性胃腸炎		1.23	幡多では増加したが、全体では減少している。
水痘		0.53	高知市、須崎、中央東、幡多では増加している。
流行性耳下腺炎		0.47	高知市、須崎で増加したが、全体では減少している。

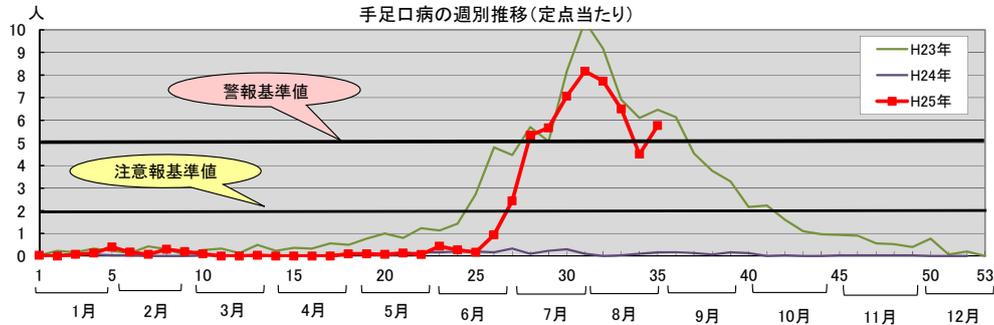
★ 地域別感染症発生状況



★ 気を付けて

○手足口病：5.77（注意報値：2.00 警報値：5.00）

定点医療機関からの報告では定点当たり5.77（前週：4.50）と再び増加し、警報値を超えています。地域別にみると、高知市（10.09：前週6.09）で増加し引き続き警報値を超えています。また、安芸（4.00：前週2.00）須崎（4.00：前週2.00）で増加し、幡多（3.80：前週4.80）中央東（3.29：前週4.00）では減少しましたが、注意報値を超えています。年齢別にみると患者の約90%が3歳以下になっています。病原体定点からはエンテロウイルス71が2例検出されているので、髄膜炎などの中枢神経系合併症には注意してください。



○RSウイルス感染症：0.37（注意報値、警報値：基準値無し）

定点医療機関からの報告では定点当たり0.37（前週：0.27）と増加しています。例年冬期にピークが見られますが、流行の立ち上がりの時期が一昨年より徐々に早まってきているので注意してください。



★ 病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
35	手足口病	2	男	高知市	Coxsackievirus A6
35	手足口病	1	女	高知市	Coxsackievirus A6
35	手足口病	3	女	須崎	Coxsackievirus A6
35	無菌性髄膜炎	1	男	幡多	Coxsackievirus A8
35	咽頭結膜炎	7ヶ月	女	幡多	Coxsackievirus B5
35	不明発疹症	1	男	須崎	Echovirus 30
35	手足口病	2	女	高知市	Enterovirus 71
35	手足口病	1	女	須崎	Enterovirus 71
35	不明発疹症	5	女	須崎	Human herpes virus 7

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
34	喘息性気管支炎	1	男	中央東	Human metapneumovirus
34	手足口病	1	男	高知市	Rhinovirus
34	不明発疹症	10ヶ月	男	中央西	Rhinovirus
34	肺炎	1	男	須崎	Respiratory syncytial virus A
34	気管支炎	2	男	須崎	Respiratory syncytial virus A

★ 全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結核	2	93	60歳代（男）	須崎市
				80歳代（男）	
5類	風しん	1	7	40歳代（男）	高知市

★ 定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
安芸	田野病院小児科	マイコプラズマ肺炎 1 例 (18 歳男)
中央東	早明浦病院小児科	病原性大腸菌 O-25 1 例 (3 歳男)
	野市中央病院小児科	34w キャンピロバクター腸炎 1 例 (2 歳男)
高知市	けら小児科 ・アレルギー科	病原性大腸菌 O-8 1 例 (9 歳男) アデノウイルス感染症 3 例 (3 歳男 2 人、5 歳女) マイコプラズマ肺炎 3 例 (5 歳女、7、8 歳男：全て迅速診断陽性) 風しん 1 例 (44 歳男)
	細木病院小児科	33w サルモネラ 1 例 (4 歳男)
中央西	くぼたこどもクリニック	ヘルパンギーナ 1 例 (5 歳女：須崎市) 口唇ヘルペス 1 例 (8 歳男)、感染性胃腸炎 1 例 (1 歳女：いの町)
	石黒小児科	ヘルペス性歯肉口内炎 1 例 (2 歳男)
須崎	もりはた小児科	アデノウイルス感染症 2 例 (1、2 歳)
幡多	さたけ小児科	膿痂疹 5 例 (1 歳男 2 人、1 歳女 2 人、3 歳女) 带状疱疹 1 例 (7 歳男)
	幡多けんみん病院小児科	病原性大腸菌 O-1 型 1 例 (2 歳女)

★全国情報

第33週 (8/12～8/18)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核337例

3類感染症：コレラ1例、細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症184例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎1例、チクングニア熱1例、デング熱11例、日本紅斑熱1例、マラリア1例、レジオネラ症1例

5類感染症：アメーバ赤痢14例、ウイルス性肝炎2例、急性脳炎1例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例
後天性免疫不全症候群15例、ジアルジア症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症2例
侵襲性肺炎球菌感染症9例、梅毒25例、破傷風2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例
風しん61例、麻しん6例

報告遅れ：E型肝炎2例、日本紅斑熱1例、マラリア1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

◆手足口病

手足口病 (hand, foot, and mouth disease: HFMD) は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心として夏季に流行する疾患である。手足口病の病原ウイルスは主にコクサッキーA16 (CA16)、エンテロウイルス71 (EV71) であり、その他コクサッキーA6 (CA6) やコクサッキーA10 (CA10) などによっても発症する。基本的には数日間の内に治癒する予後良好の疾患であるとされている。しかし稀ではあるが、特にEV71の流行時に髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経系の合併症などのほか、急性弛緩性麻痺などのさまざまな臨床症状を呈するケースが見られる。

手足口病の感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、保育園や幼稚園などの乳幼児の集団生活施設においての感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本となる。手足口病の病原ウイルスに感染しても全員が典型的な症状を呈するものではなく、不顕性感染例も存在することから、発症して診断された者を隔離しても効果的な対策とはならないと考えるべきである。同様に、主要症状が回復した後も比較的長期間に渡って尿の便などからウイルスが排泄されることもあり、回復した児に対して長期間の欠席を求めることは現実的ではない。

過去5年間に検出されたウイルスは年によって異なり、2008年はCA16、2010年にはEV71が流行した。また、2009年と、大きな流行のあった2011年はCA6の検出がみられた。2013年に手足口病と診断された患者から最も多く検出されているのはCA6であり、ウイルス検出報告631件中、CA6が284件 (45.0%) と半数近くを占めている (2013年8月21日現在)。CA6による手足口病の臨床的特徴として、典型的な発症例と比べて発疹が大きく、四肢末端に限局せず広く範囲に認められる症例に関する情報が昨年より寄せられていた。本年も、当初は水痘を疑って小児集中治療室 (PICU) で対策を取った例が、実はCA6による手足口病であった例が報告されている。

感染症発生動向調査では、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告に基づいて手足口病をはじめとする各種小児科疾患の発生動向を分析している。本年の手足口病における流行のピークは第30週で定点当たり報告数8.83 (報告数27,773) であった。前年のピークであった第31週の定点当たり報告数1.19よりかなり多く、現時点では過去10年間で2011年に次ぐ規模である。2013年第33週の手足口病の定点当たり報告数は5.23 (報告数15,574) と3週連続して減少したが、過去10年間で最多の報告数である。都道府県別では新潟県 (14.3)、福島県 (10.0)、長野県 (9.1)、山梨県 (8.7)、静岡県 (7.6)、福井県 (7.5)、三重県 (7.4)、香川県 (7.3)、岩手県 (7.3) の順である。全国的に減少傾向であるが、東北地方は増加傾向が認められる。2013年第1～33週の定点当たり累積報告数は64.4 (累積報告数201,883) であり、年齢群別では0～1歳の報告割合が43.8%、2～3歳が33.0%と、3歳までが全報告の75%以上を占めている。

2013年の手足口病の流行は第30週にピークを示し、第33週の時点で減少傾向である。しかし、これまでの同時期と比較して患者報告数の多い状態が続いており、増加傾向を示している地域もある。手足口病の起病病原体の中で重症化の頻度が高いEV71を含め、手足口病の発生動向には今後とも注意深い観察が必要である。

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第35週 平成25年8月26日(月)～平成25年9月1日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第35週						計	前週	全国(34週)	高知県(35週末累計) H24/12/31～H25/9/1	全国(34週末累計) H24/12/31～H25/8/25
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多					
インフルエンザ	インフルエンザ							()	()	65 (0.01)	11,198 (233.29)	1,136,347 (231.20)	
小児科	咽頭結核熱				4	2		1	7 (0.23)	11 (0.37)	1,451 (0.47)	46,573 (14.84)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				2				2 (0.07)	6 (0.20)	1,988 (0.64)	181,116 (57.70)	
	感染性胃腸炎	2	4	19	3	1		8	37 (1.23)	58 (1.93)	9,184 (2.96)	695,984 (221.72)	
	水痘			2	10	2	1	1	16 (0.53)	10 (0.33)	1,689 (0.54)	120,072 (38.25)	
	手足口病	8	23	111	4	8	19	173 (5.77)	135 (4.50)	13,169 (4.24)	1,708 (56.93)	215,220 (68.56)	
	伝染性紅斑								()	1 (0.03)	134 (0.04)	45 (1.50)	6,928 (2.21)
	突発性発疹		1	4	1	1	1	3	10 (0.33)	13 (0.43)	1,912 (0.62)	418 (13.93)	58,855 (18.75)
	百日咳								()	3 (0.10)	38 (0.01)	41 (1.37)	1,112 (0.35)
	ヘルパンギーナ	3	7	26	11	3	6	56 (1.87)	89 (2.97)	4,598 (1.48)	1,568 (52.27)	74,975 (23.88)	
	流行性耳下腺炎		4	8				1	14 (0.47)	23 (0.77)	677 (0.22)	288 (9.60)	27,543 (8.77)
RSウイルス感染症							11	11 (0.37)	8 (0.27)	1,281 (0.41)	545 (18.17)	31,122 (9.91)	
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	17 (0.03)	()	519 (0.76)	
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	()	495 (0.73)	13 (4.33)	13,164 (19.33)	
基幹	細菌性髄膜炎							()	2 (0.25)	14 (0.03)	6 (0.86)	300 (0.64)	
	無菌性髄膜炎			1				1 (0.13)	1 (0.13)	43 (0.09)	10 (1.43)	654 (1.39)	
	マイコプラズマ肺炎		1	2				3 (0.38)	3 (0.38)	181 (0.39)	172 (24.57)	8,161 (17.40)	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							()	()	12 (0.03)	13 (1.86)	504 (1.07)	
計 (小児科定点当たり人数)	13 (6.50)	42 (5.86)	188 (16.72)	23 (7.67)	15 (7.50)	50 (10.00)	331 (10.87)			36,948	24,612 (673.29)	2,619,149	
前週 (小児科定点当たり人数)	16 (8.00)	58 (8.14)	173 (15.46)	38 (12.67)	23 (11.50)	55 (10.60)		363 (11.90)					

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第35週						計	前週	全国(34週)	高知県(35週末累計) H24/12/31～H25/9/1	全国(34週末累計) H24/12/31～H25/8/25
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多					
インフルエンザ	インフルエンザ									0.01	233.29	231.20	
小児科	咽頭結核熱				0.36	0.67		0.20	0.23	0.37	0.47	4.00	14.84
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				0.18				0.07	0.20	0.64	19.83	57.70
	感染性胃腸炎	1.00	0.57	1.73	1.00	0.50	1.60		1.23	1.93	2.96	216.63	221.72
	水痘		0.29	0.91	0.67	0.50	0.20		0.53	0.33	0.54	45.77	38.25
	手足口病	4.00	3.29	10.09	1.33	4.00	3.80		5.77	4.50	4.24	56.93	68.56
	伝染性紅斑									0.03	0.04	1.50	2.21
	突発性発疹		0.14	0.36	0.33	0.50	0.60		0.33	0.43	0.62	13.93	18.75
	百日咳									0.10	0.01	1.37	0.35
	ヘルパンギーナ	1.50	1.00	2.36	3.67	1.50	1.20		1.87	2.97	1.48	52.27	23.88
	流行性耳下腺炎		0.57	0.73		0.50	0.20		0.47	0.77	0.22	9.60	8.77
RSウイルス感染症							2.20	0.37	0.27	0.41	18.17	9.91	
眼科	急性出血性結膜炎									0.03		0.76	
	流行性角結膜炎			1.00					0.33		0.73	4.33	19.33
基幹	細菌性髄膜炎								0.25	0.03	0.86	0.64	
	無菌性髄膜炎			0.20					0.13	0.13	0.09	1.43	1.39
	マイコプラズマ肺炎		1.00	0.40					0.38	0.38	0.39	24.57	17.40
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0.03	1.86	1.07	
計 (小児科定点当たり人数)	6.50	5.86	16.72	7.67	7.50	10.00	10.87				673.29		
前週 (小児科定点当たり人数)	8.00	8.14	15.46	12.67	11.50	10.60		11.90					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）

TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869